

RaQ3/4パッチ強化セミナー

CobaltResQ 小田 誠

このセッションで学ぶこと

- RaQ3/4Cobaltパッケージのしくみ
- Cobaltパッケージを開く
- 運用例
- トラブル発生時の対応

Cobaltパッケージとは

- RPMがpatch形式で構成
- 前後の処理はshellスクリプト
- perl/sed/awkなどの呼び出しも可能

Cobaltパッケージの展開

- pkgの展開方法
\$ tar -xvzf RaQ3-All-Security-4.0.1-9531.pkg
- 標準的な構成
 - packing_list 内容を示すテキストファイル
 - RPMS/ rpmを置くためのディレクトリ
 - patches/ パッチを置くためのディレクトリ
 - scripts/ 外部呼び出しscriptを置く
 - upgrade_me アップグレードのshellスクリプト
 - uninstall_me 削除用のshell(通常は利用しない)

Cobaltパッケージの展開

- RPMの確認
\$ rpm proftpd-1.2.0rc3-C1.i386.rpm | rpm2cpio -i -t
 - RPMの展開
\$ rpm proftpd-1.2.0rc3-C1.i386.rpm | rpm2cpio -i -d
- カレントディレクトリに展開される

Cobaltパッケージ適用の前に

- パッチを当てる前にバックアップ
 - /etcは必ずバックアップしましょう
 - SCMUなどのツールをつかって不測の事態に備える
- ユーザが利用しない時間を選ぶ
 - パッチの問題かユーザの問題か切り分け
- 緊急時の交換物を用意する
 - HDDや筐体など
- 可能なら管理画面をipchainsで停止



Cobaltパッケージの適用

- 管理画面からが一般的
 - 保守メニューからインストール
 - /home/packages/にftpすると確実
- コマンドラインからも呼び出しが可能

/usr/local/sbin/cobalt_upgrade RaQ3-All-Security-4.0.1-9531.pkg



Smart Installとは

- Makefileとperlスクリプトで構成
- アライブネットで管理に利用していたものを今回新たに書き直し
- 順番を間違えることがない
- インストール前にmd5sumをチェック
- 信頼性の向上
- 時間の短縮
- RPMのmd5sumをチェック



Smart Installを使う

- make pre
 - パッケージのmd5をチェック
- make up
 - パッケージをインストール
- make check
 - パッケージの整合性を確認
- make post
 - 後処理をする



パッケージ適用に失敗したら

- FTPなどを使いデータを保存
- 再起動は避ける
 - 二度と起動できない可能性もある
- シングルブートができないか試みる
 - PCとクロスケーブルでつないでみる
- 他のLinuxでデータを取り出す
 - Knoppixなどが便利